

## 水田を活用した地域の新規野菜品目 (漬物加工用なす)栽培の推進

高島農業農村振興事務所農産普及課

### 【普及活動のねらい・対象】

高島地域では水田を活用したキャベツや大かぶなど、秋冬どりの重量野菜の栽培面積が10年前の5割に衰退しており、野菜の生産振興が課題になっています。重量野菜に代わる野菜の新規品目を検討していたところ、平成20年に京都市場から漬物加工用なすの契約栽培の提案がありました。単価をあらかじめ設定して全量が引き取りされ、収支計画が立てやすいことから、地域農業センター・各JA担当者が管内の水稲複合経営農業者や新規に野菜に取り組む生産者に推進し、7戸、40aで栽培が始まりました。



減農薬を目指したなすの刈り-障壁栽培

### 【普及活動の成果】

当課では集合研修や巡回指導による栽培基本技術の指導とあわせ、風による傷果を軽減でき土着天敵を活用した減農薬栽培となるソルゴーによる囲い込み栽培と、それに対応した環境に優しい病害虫防除薬剤のローテーション防除への取り組み支援を行っています。

平成21年は90aに栽培面積が増え、6月上旬から9月上旬までの加工向け出荷で昨年比3倍の29tが出荷でき、漬物業者からも高い評価を得ることができました。生産者と漬物業者社長との意見交換や、自分が出荷したなすが加工されていることを加工場で実際に見ることを通じて、品質向上や販売への意欲も高めることができました。

加工向け需要は今以上の出荷量を要望されており、学校給食向けの出荷や直売所での販売もできたことから、高島地域の新たな水田を活用した野菜品目として新規栽培者への生産拡大を進めています。



加工なすの収穫・目合わせ現地研修会



出荷先の京都大原のしば漬け専門店社長から説明を受ける栽培者